

関西サッカー協会
公式記録

会場責任者	主審サイン
和田 栄一	佐々木里紗

大会名	第26回関西高等学校女子サッカー選手権大会 兼 第26回全日本高等学校女子サッカー選手権大会関西大会	試合番号	⑤	開催日	平成29年11月23日 (木)	競技時間	70分	記録者	川邊三央
会場	宝が池球技場	天候	晴	風	弱	土	良好	主審	佐々木 里紗 氏
		雲	無	雨	無	人工芝	不良	副審	A1 吉田 侑樹 氏 A2 相宮 和真 氏
		強	無	弱	無	天然芝	泥濘	第4の審判員	植野 将大 氏
		観	無	雨	無	人工芝	泥濘		

kick off	1 前半 0	kick off	0
日ノ本学園 高等学校	4 後半 0	神戸弘陵学園 高等学校	0
先	延長前半	先	延長後半
5	PK戦	0 X	
背番号		背番号	
O X		O X	

交代 時間	シュート (得点者は*印)				学 年	選手名	背 番 号	位 置	背 番 号	選手名	学 年	シュート (得点者は*印)				交代 時間	
	延長後半	延長前半	後半	前半								前半	後半	延長前半	延長後半		
62分					3	米澤 萌香	1	GK	GK	1	末廣 実愛	2					
55分				1	3	宮崎 音々	2	DF	DF	3	稲垣 未羽	2	1				
					3	金平 莉紗	3	DF	DF	⑤	河野 星楽	3					
					2	杉岡 真里奈	15	DF	DF	13	池田 悠紗	3					49分
HT					1	渡邊 那奈	17	DF	DF	15	田中 奈緒	3					31分
46分				4	3	松永 未衣奈	6	MF	MF	6	砂川 陽菜	3					
					3	伊藤 美玖	7	MF	MF	7	余田 清華	2					
46分				* 1	3	吉間 かれん	8	MF	MF	10	末次 芽生	3			1		
					3	内藤 夏鈴	11	MF	MF	14	木村 美桜	1					67分
					3	牛島 理子	⑨	FW	FW	9	三井 ひなた	2					
					3	澁川 鈴菜	10	FW	FW	18	河村 祐実	1					67分

交代 選手	1番	17番	2番	番	番	8番	6番	小計	合計	シュート数	合計	小計	2	1	0	0	交代 選手
	分	分	分	分	分	分	分	8	17	3	2	1					番
													1				15番
																	14番
																	13番
																	18番
																	番
																	番
																	番

警・退	時間	番	氏名	事由	合計	延長	延前	後半	前半	チーム合計	前半	後半	延前	延長	合計	警・退	時間	番	氏名	事由
	分				5			2	3	GK	2	6			8		分			
	分				6			3	3	CK	1	1			1		分			
	分				0					直接FK	3	4			7		分			
	分				1			1		間接FK	3	5			8		分			
	分				0					PK					0		分			

得 点	時間	チーム	得点者	アシスト	得点経過	時間	チーム	得点者	アシスト	得点経過
		2分	日ノ本学園	吉間 かれん	牛島 理子	中1⑩↑中1⑤↑中1⑧S	分			
	37分	日ノ本学園	澁川 鈴菜	牛島 理子	中3⑧↑左1⑤→中1⑩S	分				
	42分	日ノ本学園	伊藤 美玖		中1⑥→中1⑦SDF跳ね返り中1⑦S	分				
	51分	日ノ本学園	澁川 鈴菜	会沢 日花里	中3⑧↑中1⑩S	分				
	62分	日ノ本学園	澁川 鈴菜	金平 莉紗	中3⑧↑左1⑩→中1⑩S	分				
	分					分				
	分					分				
	分					分				
	分					分				
	分					分				
	分					分				
	分					分				
	分					分				

(略号) ~ :ドリブル → :ゴロのパス ∩ :浮球のパス H :ヘディング HS :ヘディングシュート X :混戦 S :シュート

戦評者氏名 (井尻 真文) 勤務先又は所属 (私立星翔高等学校)

兵庫県同士のカードとなった準決勝戦は両チーム共に4-4-2のシステムで試合が開始される。立ち上がり両チーム中盤の攻防からシンプルに背後を覗いながら攻撃を進める。開始2分に日ノ本学園がシンプルにサイドのスペースを取りに行き左サイドのクロスから先制点を奪う。日ノ本学園は丁寧なコントロール相手を覗いながらテンポ良くボールを動かして中央を突きながら相手を集結させてサイドへ広げ、サイドへ広げながらも中央を突いて攻撃を展開する。また攻撃から守備への切り替えでボールを回収しては三角形を上手く作り相手をずらしてテンポ良くボールを動かしていく。動き直しの量とスピードがとても印象的であった。対する神戸弘陵は3ラインをコンパクトにしてFW⑩河村・FW⑨三井の2トップの規制からサイドでボールを奪いたいという戦術行動が伺えた。立ち上がりから失点はしたものの、2トップの献身的な守備から意図した守備の戦術からボールを奪えば優先順位を替えて動き出しの入った前線の選手へのダイレクトプレーでゴールへ迫りに行く。両チームともに戦術行動もはっきりしており、日常から鍛えられていることが見てわかるゲーム内容であった。自力に勝る、日ノ本学園がしっかりとテクニックを發揮し後半にも得点を重ね5-0で決勝戦へコマを進めた。決勝戦でも兼ね備えた技術と戦術行動を期待したい。最後までハードワークをして献身的な姿勢で戦った両チームの健闘を称えたい。